

YASUI

ARCHITECTS & ENGINEERS, INC.

2017.09
No.06

街と、ともに成長する。
Urban Design Works



topics

イベントのお知らせ

大阪 event 北大江たそがれコンサートWeek2017 10月8日(日)~14日(土)開催



詳細は、オフィシャルサイト
<http://kitaoe.jp>をご確認ください。

当社大阪事務所がある北大江(大阪市中央区)の街が音楽につつまれる一週間、街の各所で様々なライブが開催されます。注目は、津軽三味線竹山節本流継承者として海外でも公演多数の大野敬正さんによる津軽三味線ライブ。恒例の北大江公園野外コンサートは10/14(土)15:00~17:00開催予定。テーマは「ポップスセレクション」。国内外のポップス音楽をお届けします。

Yasui Green Project

今年4月、当社大阪事務所のエントランスの緑をリニューアルしました。夏の強い日差しに負けずイキイとしたヘデラの緑が通りに潤いを与えています。

大阪 event 生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪2017 祝・日本建築学会賞 受賞! 7月13日(木)にキックオフパーティが開催されました!

大阪に現存する近・現代の建物を通し、大阪の魅力を発信する日本最大級の建物公開イベント「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪(イケフェス)」。

イケフェスは、その取り組みが評価され、今年、日本建築学会賞(業績部門)を受賞しました。昨年は、過去最大の3万8千人が参加し、大阪の秋の恒例イベントとして定着しつつあります。



日本建築学会賞の表彰状と盾

第4回となる今年は、10/28(土)29(日)の2日間を中心に開催を予定しており、さらにパワーアップすべく、着々と準備が進められています。

「今年も、さらに盛り上がりついで!!」ということで、開催に先立ち7/13(木)にキックオフパーティが開催されました。イベントに協力いただいている建物関係者、ボランティア、実行委員会関係者、メディアなど約140名が参加し、文筆家の柴崎友香さんと建築史家の倉方俊輔さん(イケフェス実行委員)の生きた建築トークショーを楽しみ、おいしい食事とともに交流を深めました。



キックオフパーティの様子
会場は、竹中工務店(大阪)のおしゃれな社員食堂

当社は、今年からは実行委員会の委員として参加し、安井オープンハウスは10/27(金)28(土)の開催を予定しています。お楽しみに。

大阪 event 御堂筋完成80周年記念事業 大阪のシンボルストリート「御堂筋」は、2017年5月、80歳の誕生日を迎えました!

大阪(船場=現在の淀屋橋・本町界限)は、南北の「筋(すじ)」、東西の「通(とおり)」とよばれる道からなる街で、現在の御堂筋が誕生する以前は、大阪城へと続くが東西の「通」が主要な道でした。そんな街を近代都市へと大改造するため打ち出されたのが、当時の大阪市長関一氏の「都市大改造計画」の中心事業、御堂筋拡幅。

もとは幅約6m長さ約1.3kmの道を、幅約44mに拡幅し梅田から難波の南北約4kmを結ぶ幹線道路として整備、電柱を地中化し並木を植え、さらに道路の下に地下鉄を走らせるというもの。当時としてはとんでもなく壮大な事業で

「市長は街のまん中に飛行場でもつくる気か」と市民たちは噂していたそうです。拡幅工事は、1930(昭和5)年に着工し、1937(昭和12)年5月に完成。時代を超え市民に愛されるシンボルストリートとして大阪の街を支えています。

現在、御堂筋では、冬の風物詩 イチョウ並木のイルミネーションや歩行者天国イベント等、人々の憩いの場として道を活用する様々な取り組みが行われています。いずれは、御堂筋を歩行者専用の公園のような空間に改造しようという構想もあります。今後どのようなストリートに大改造されていくのが楽しみです。



御堂筋拡幅工事中の1933年に竣工、現在も御堂筋を見守る「大阪ガスビル」(設計=安井武雄、竣工当時の写真中央)は、御堂筋の象徴的なビル。

御堂筋完成80周年を記念し、シンポジウムなど、御堂筋沿道で様々なイベントが開催されます。(詳細はWEBで、<https://mido-suji80.info/>)

御堂筋80周年記念イルミネーション実施中!
開催日:2017年11月10日までの毎週金曜日
点灯時間:日没約30分前~23:00
開催場所:御堂筋(北浜3交差点~難波交差点)

Project #06 まちに溶け込む学校

東京都中野区立中野中学校と東京都江東区立豊洲西小学校は、どちらも大規模な土地利用転換に伴い、まちの課題を解決するために計画された学校です。

一般的に学校は、敷地境界での児童・生徒・関係者以外の立ち入りをできなくすることで安全性を確保しています。一つの学校の計画では、児童・生徒が学ぶ場所としての機能性や安全性を確保しながらも、敷地の一部を開放しています。周辺市街地との間でネットワークを形成して回遊性を向上させる緑道、通路、緑地などを都市計画に定めて整備を行い、さらに広場や空地も含めて地域の人々が自由に利用できる外部空間を整備することで、まちとつながり、まちに溶け込む学校を実現しています。

東京都中野区立中野中学校

統合新校の新校舎
 中野中学校は、平成17年に策定された「中野区立小中学校再編計画」に基づき、第九中学校と中央中学校が統合化された学校であり、旧中央中学校を一部拡大した敷地に新校舎を新たに整備したものです。

警察大学校跡地のまちづくり計画
 敷地周辺においては、



四季の森公園(拡張部分)から見る校庭及び校舎



中野駅北西の警察大学校等跡地において土地処分方針が平成18年3月に確定したことを受けて、東京都と中野区が、中央中学校や区役所などの隣接敷地を合わせて計画的な土地利用転換を行うため、平成19年に「中野四丁目地区」として再開発等促進区を定める地区計画が定められました。また、平成18年に定められた、跡地を含む中野駅周辺110ヘクタールのまちづくりの方向性を定める「中野駅周辺まちづくりランドデザイン」では、中野四丁目地区にお

いては、先行街区の開発に伴い、広大な都市計画公園「四季の森公園」を整備すると共に、これと一体的な公共空地等によって豊かな空間を確保する計画となりました。

公園と一体利用できる校庭や通路の整備

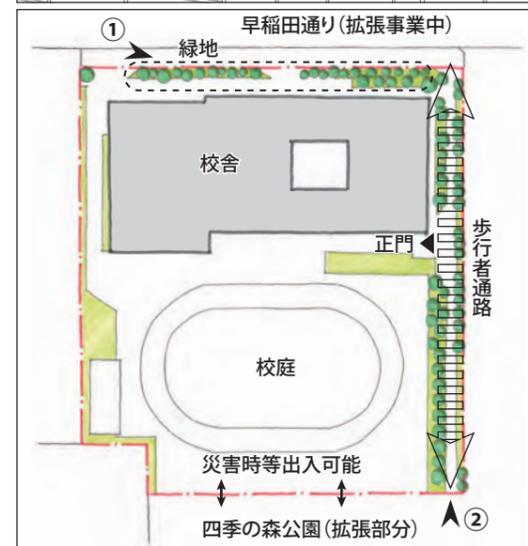
中野中学校の計画に際しては、周囲の開発及び「ランドデザイン」をベースに、まちに貢献する外部空間や地区施設等を



①敷地北側の早稲田通り沿道の緑地



②敷地東側の歩行者通路



整備しています。敷地南側に四季の森公園の拡張整備が予定されていたため、学校敷地も含めて地区全体が広域避難場所に指定されていることも踏まえ、隣接して校庭を整備して、災害時の一体利用ができるようにしています。また、敷地東側に北側の早稲田通りと南側の四季の森公園(拡張部分)を結ぶ緑豊かな歩行者通路を整備して、地域の利便に配慮しています。拡張事業中の早稲田通りの沿道は、計画されている広い歩道と一体的な緑地の整備によって、憩いを感じられる沿道空間となる予定です。

東京都中野区立中野中学校

所在地:東京都中野区中野四丁目
 用途:中学校
 建築主:東京都中野区
 設計・監理:安井建築設計事務所
 施工(建築):協永・武蔵野・稲葉建設共同企業体
 構造:RC造・一部S造
 規模:地上5階、地下1階
 敷地面積:11,252㎡

延床面積:12,292㎡
 竣工:2014年3月
 ※左の写真は黒住建築写真事務所撮影



東京都江東区立豊洲西小学校

東京メトロ有楽町線豊洲駅周辺の開発に伴う人口増を受けて、既設の豊洲小学校に加えて平成19年に豊洲北小学校が整備(その後平成22年に増築)されましたが、計画地を含む豊洲埠頭跡地周辺地区(以下、「豊洲地区」)において、さらなる住宅開発が計画されており、既存の2校も周辺開発に

湾岸地域の新設校

豊洲地区においては、埠頭跡地からの計画的な土地利用転換を行なうため、開発に際して区画道路や公園、緑道、広場などの地区施設等を計画的に整備するため、平成5年に再開発等促進区を定



西側(東電堀)から見る校庭及び校舎



よって受入児童数の逼迫が見込まれることから、豊洲西小学校の新設が計画されました。

豊洲埠頭跡地のまちづくり計画
 豊洲地区においては、埠頭跡地からの計画的な土地利用転換を行なうため、開発に際して区画道路や公園、緑道、広場などの地区施設等を計画的に整備するため、平成5年に再開発等促進区を定める地区計画が定められました。その後、豊洲新市場計画に伴って平成19年に都市計画変更が行われるなど、開発計画の具体化に伴って様々な地区施設等が定められていきました。

これと並行して、平成18年にまちづくりガイドライン、平成19年に景観ガイドラインが定められるなど空間設計の基本方針が定められました。

周囲とつながる 緑道等の整備

豊洲西小学校の整備に当たっては、ガイドラインを踏まえながら、同時期に南側の隣接敷地で計画されていた昭和大学江東豊洲病院と共に、北側の開発予定地の所有者を含めて地区全体のまちづく

りの調整を行い、将来的に整備する構想区間も含めてまちの骨格を形成する地区施設を定めました。豊洲西小学校では、地区施設として、西側の東電堀を囲む親水護岸と一体的な歩行者ネットワークを形成するとともに東側の道路から歩行者ネットワークにアクセスできる

ようにするため、西側及び南側に緑道を設けました。また、道路に面した東側には歩道状空地の整備により、歩道と一体的な豊かな歩行者空間を確保しました。これらに合わせ、正門前に誰もが利用できる広場を整備したほか、校庭は地域開放や水辺からの開放感を意

識した緑道沿いに整備されています。なお、計画に際しては、緑道及び広場の高さの調整や、植栽の樹種や列植の間隔の統一など、南側の昭和大学病院と一体的な外部空間の形成を図っています。

現在は、昭和大学病院

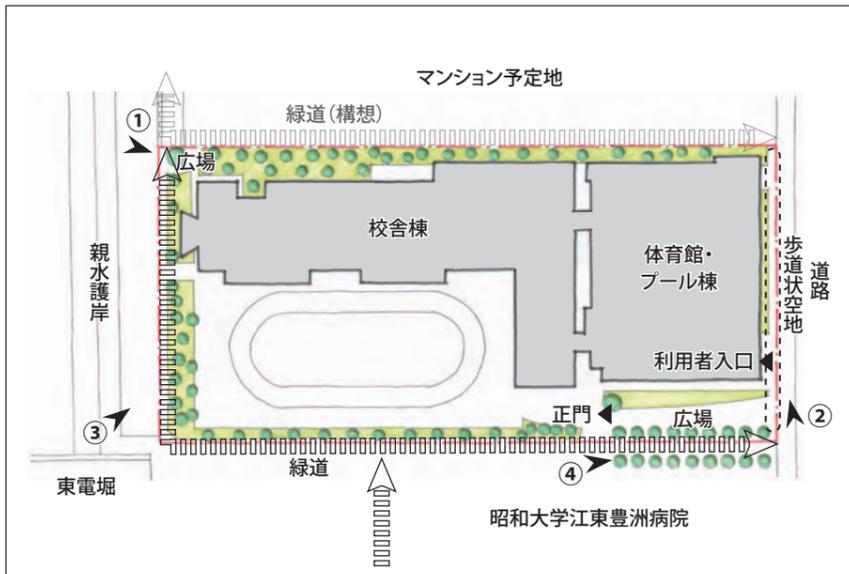
区民が気軽に使えるプール等

なお、豊洲西小学校は、緑道や広場など、地域の人々が自由に利用できる外部空間を整備しただけでなく、建物内部についても、機能配置を工夫することで、屋内プール及びトレーニング室を児童が使っていない時間帯に区民が予約なしで通年で使えるように計画されており、学校全体が地域に開かれています。



①敷地北西角の広場

②敷地東側の歩道状空地



③敷地西側の緑道



④敷地南側の緑道と昭和大学病院(右)と調和した樹木

豊洲西小学校における 学校施設複合化の工夫

豊洲地区は、職・住・憩の機能が非常に近い距離感の中で、文字通り一体となって発展している新しいまちです。その中で豊洲西小学校は、人口増加が著しい豊洲地区のスポーツ環境整備の一環として、校庭や体育館の一般開放に加え、屋内プールやトレーニング室も開放可能なとした学校です。設計においては、学校運営と通年開放が可能なゾーンをどう両立させ、この学校がまちづくりにどのように寄与できるかが課題でしたが、いくつかの工夫によってこの課題を解決しました。

一つ目は、子供たちが日中過ごす「校舎ゾーン」と体育館やプール等の「開放ゾーン」を別棟とし、それぞれが個別に管理運営できる計画としました。このことで開放ゾーンは、

学校運営の時間帯に影響なく区民が利用することが可能となりました。また敷地内の約2mの高低差を利用して、体育館は2階に、屋内プールは1階に設けることで、学校が体育館を利用している時間でもプールの区民開放を可能としています。

二つ目に、「開放ゾーン」である体育館・プールを道路沿いに配置し、専用のエントランスを用意しました。これによって開放施設の利便性を高め、校舎ゾーンの来訪者と明確に分離しています。プールとトレーニング室は、区民が予約なしで自由に使えるようになっており、3、4歳児から高齢者まで、様々な世代を対象とした水泳教室が実施されるなど、まちに向けて賑わいのある、まちを活性化

した。これらに加えて、地域に根ざす学校として環境性能と防災機能を高め、災害時の拠点としての機能を確保しました。体育館だけでなく電気室も2階以上に計画し、冠水によるリスクに配慮しました。また、災害時に電気を供給できる自家発電設備を備えました。自家発電設備の廃熱によってプールの温水をまかなっており、断熱性を高めた外壁と合わせたエネルギー消費の低減を達成しています。

豊洲地区が発展し成熟していく過程で、この学校を卒業した子供たちがいつでもこの開放施設に立ち寄り、地域のコミュニティを高めたいと願っています。(ファシリテーター・ソリューション部長 辻昭憲)



ゾーン区分と利用経路



プール



トレーニング室

東京都江東区立豊洲西小学校

所在地:東京都江東区豊洲五丁目
用途:小学校
建築主:東京都江東区
設計・監理:安井建築設計事務所
施工(建築):フジタ・新日本・丸三建設共同企業体
構造:RC造・一部S造
規模:地上4階
敷地面積:9,998㎡

延床面積:12,060㎡
竣工:2015年2月
※左の写真及びp4のゾーン区分と利用経路に用いた写真はプライズ撮影

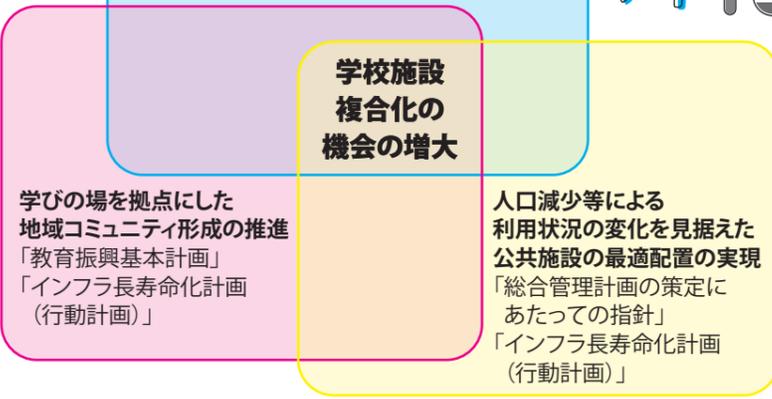


学校施設複合化勉強会を新設しました

学校施設の複合化は、文部科学省では1990年代より、学習環境の総合的向上の一手法として取り組まれてきました。近年では、2013年6月閣議決定の「教育振興基本計画」において、学びの場を拠点にした地域コミュニティ形成の推進のために、学校施設と社会教育施設等との複合化や余剰教室の活用が打ち出されています。

一方で、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラの老朽化を受けて、2013年11月に関係省庁連絡会議で「インフラ長寿命化基本計画」が策定され、所管者に行動計画の策定を求めました。また、2014年4月に総務省より通知「公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進について」が出され、併せて公表された「総合管理計画の策定にあたっての指針」は、公共施設の老朽化対策等が課題となっており、今後の公共施設等の利用需要の変化予想を踏まえ、更新・統廃合・長寿命化等の計画的実施による、財政負担の軽減・平準化、公共施設の最適配置の実現の必要性を示しています。その中では、多目的の公共施設等や民間施設の利用・合築等も検討することが望ましいとされています。文部科学省では2015年3月に「インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、公立学校を拠点として地域コミュニティの形成を推進する観点や、人口減少等による利用需要の変化

公共施設老朽化対策が課題となる中での更新・統廃合・長寿命化等の計画的実施（他施設との合築等も検討）による財政負担の軽減・平準化
「総合管理計画の策定にあたっての指針」



とめています。

を見据えた公共施設の最適な配置の実現の観点などから、長寿命化に併せ、公立学校と公立社会教育施設等との複合化の検討も考えられるとしています。これらの動きを踏まえ、文部科学省は2015年11月に「学習環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について」をまと

めています。今後、地方公共団体において、学校施設と他の公共施設等との複合化を検討する機会の増大が予想され、当社においても、学校施設の複合化による地域コミュニティの強化や地域振興・再生に関する計画等の勉強会を新設することとしました。

勉強会の進め方

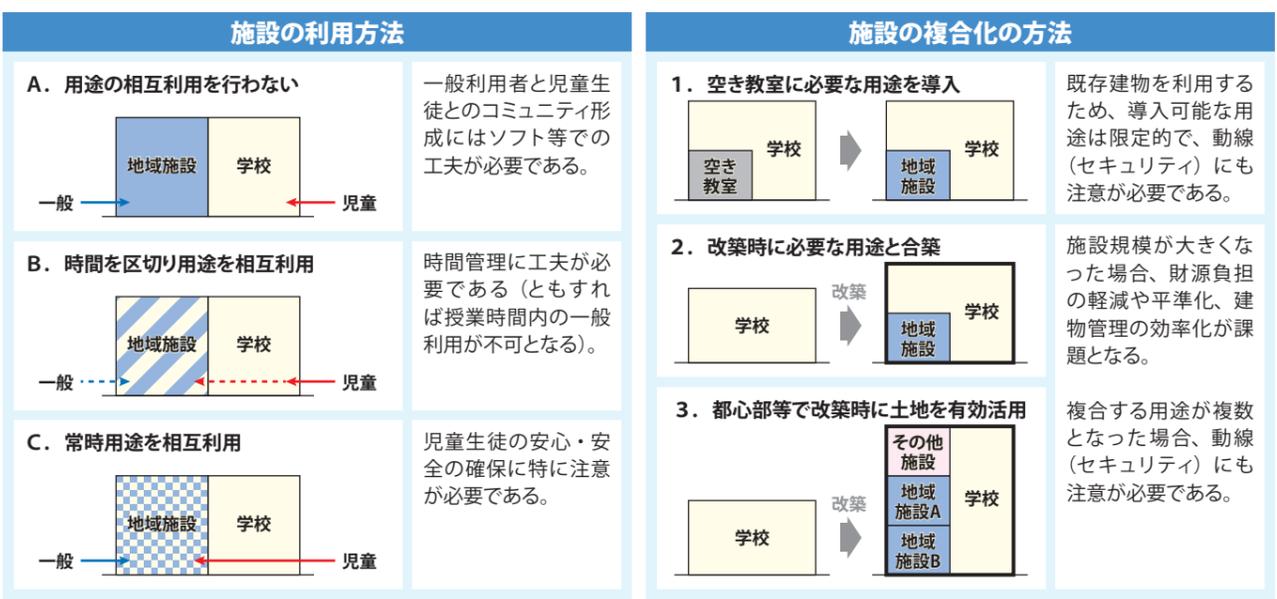
- STEP1 意義・留意点・事例の整理** ※今回
複合化の意義や留意点を整理すると共に、事例を類型毎に整理し、それぞれの背景や課題の解決方法を整理します。
- STEP2 提案に係る方法論の検討**
上記の整理を踏まえ、実際の学校複合施設の業務案件を通じて、複合化の提案に係る方法論を検討します。
- STEP3 ケーススタディ**
学校施設の複合化を考えている地方公共団体に、検討した方法論を活かしたケーススタディを提案します。

学校施設複合化勉強会では、学校複合化の意義や留意点、事例の整理を行うとともに、当社の実際の業務案件をベースに学校の複合化に係る方法論を検討し、最終的にケーススタディとして、学校施設の複合化を検討している地方公共団体への提案を目標としています。

また、この勉強会の研究成果は、当パンフレット等を通じて、社内外に発信していく予定です。今回は、事例を整理する中で分類した複合施設の類型と類型ごとの代表的な事例の複合化の背景と課題の解決方法をご紹介します。

勉強会の目標と活動内容

学校施設複合化の類型と課題



- 当社設計事例**
東京都江東区立豊洲西小学校(類型B-2) 2015年4月開所 (プール、トレーニング室との複合)
東京都中野区立第三十中学校統合新校(類型A-2) 2018年4月開所予定 ((仮称)総合子どもセンター、教育センター、図書館との複合)

その他参考事例

埼玉県志木市立志木小学校(類型C-2) 2003年3月開所 (公民館・図書館との複合)

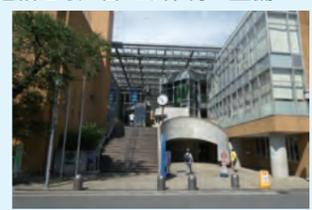
【背景・経緯】

- 志木市は学校建替えにあたり21世紀の教育にふさわしい校舎をつくらうと考えた。一方で、近接する公民館・図書館の建物の老朽化もあり、1校(小学校)2館(公民館・図書館)複合施設とする案が浮上した。
- 複合化によって、多くの大人の目が子供の周囲に確保されることで通常の学校より安全性が高まり、少々騒がしい場合も大人が注意することで実社会でも通用する振る舞いを身に付けることができる相乗効果が期待された。
- 安全性を心配した保護者間で反対運動が始まったが、学校関係者、保護者、地域の人たちで構成される検討委員会での議論で理解が深まり、以下のような安全対策のもと保護者の協力を得られるに至った。

【課題解決等(児童の安全対策)】

- 施設全体がガラスを主として構成された見通しがよい計画
- 入館者の確認のため、入口に公民館事務室を配置
- 学校の昇降口にガードマンを配置
- 死角に監視カメラを設置、職員室で確認する設備の整備
- 教員全員がPHSを所持し、連絡を取り合える体制の整備

<参照>
School Amenity 286号(ボイックス株式会社)



京都府京都市立御池中学校(類型A-3) 2006年4月開所 (乳幼児保育所、高齢者デイサービスセンター、在宅介護支援センター、拠点備蓄倉庫、地域便益施設、観光トイレ、オフィススペース、賑わい創出施設との複合)

【背景・経緯】

- 学校統合の検討を始めた2001年当時、京都市は「緊急事態宣言」を出すほど財政が逼迫していた。
- 2002年に市議会から、必要な公共施設との合築について、PFI事業を視野に入れた検討の可能性が示された。
- 2002年に京都市PFI導入基本方針が出され、PFI導入の検討が義務化(建設費22億2千万円以上)された。
- これを受け、庁内の関係局に対して、施設検討・提案シートの提出を求め、複合化の最適案を策定した。
- 導入可能性調査の結果VFM*が10%見込まれ、PFI事業での実施が決定した。

【課題解決等】

- 募集に際して、事業者による賑わい施設の運営と、広く地域の意見を聞いて計画に反映させることを求めた。賑わい施設は、商工会議所と協議の上で店舗を選定している。
- 角地を活かして各用途を個別にアクセス可能とする一方、中庭形式の配置で一般利用者が生徒を間近に見られるよう計画されている。

※VFM:従来方式との比較での事業費の削減割合
<参照>
学校PFIにおける地域との連携に関する考察—京都御池中学校・複合施設整備等事業を事例として—/白田利之(大阪市立大学大学院) 2007年12月

